

大腿骨頸部骨折地域連携診療計画書

患者氏名 ()
 バス番号 (KKA-F-)
 生年月日 年 月 日

入退院支援加算 I (有・無)
 地域連携診療計画加算 (有・無)
 地域連携診療計画説明日 年 月 日

大腿骨頸部骨折で入院されました
 入院日 年 月 日

急性期病院 ()
 症状: 疼痛 歩行困難
 主治医: () 他の担当者: ()

	入院日～手術前日	手術日	術後1～2週	転院
検査	病状にあわせ血液検査、レントゲン、心電図、尿検査を行います	病状にあわせ血液検査、レントゲン、心電図、尿検査を行います	病状にあわせ血液検査、レントゲン、心電図、尿検査を行います	転院先病院のベッド調整がつき次第転院となります
治療薬剤	持参された内服薬は医師の確認後に服用の説明をします。薬の内容によっては中止させていただきます。	抗生剤点滴	医師の指示により術後輸液、鎮痛剤等治療を行います	
処置	肺塞栓の予防処置を行います	手術	創観察・処置を行います	創傷被覆保護材除去日 月 日
食事	常食 ※患者さまの状態にあわせ、必要時治療食(手術日は絶食) ●特別な栄養管理の必要性(有・無) ※必要と判断した場合は、栄養改善に取り組みます			
清潔	体を拭きます	手術	創傷被覆保護材除去後シャワー浴します	開始日 月 日
排泄	ベッド上、尿カテーテル留置		ポータブルトイレ → トイレ	
活動度	ベッド上安静です(牽引)	ベッド上安静です。看護師にて体の向きを換えます	歩行器での歩行訓練をします。リハビリセンターで練習した内容を病棟でも実践しましょう	
リハビリ	骨折をしている足の安静を守りながら、ベッド上での筋力強化を行います	医師の指示のもと早期からリハビリを開始します。リハビリ開始日 月 日	足を曲げる練習と筋力をつける練習を始めて歩く練習を始めて座る・立つ練習を始めて車椅子、平行棒、歩行器でのリハビリ	
説明	医師より手術・麻酔について説明があります。説明日 月 日	手術後の説明があります	術後の経過、日常生活動作、車椅子への移動の仕方について説明します。退院・転院について説明します	
医療相談	必要により福祉制度、介護サービスなどの相談にも応じます			

手術後2週間目で転院です

リハビリ病院 ()
 主治医: () 他の担当者: ()
 説明日: 年 月 日

転院日～退院(入院期間:おおよそ__日程度)

検査	必要に応じて血液検査、レントゲン
食事	常食 ※必要時治療食
清潔	清拭、入浴、シャワー
排泄	状態に応じて職員がお手伝いしながらトイレ(ベッド上、尿器、ポータブルトイレ、洋式トイレ)に行きます。オムツも徐々に外せるように介助していきます
活動度	医師と相談して杖、車椅子、歩行器、装具の検討、介護保険サービスの手配、家屋改修指導等を行います
説明	治療計画について説明があります。退院後の治療計画の説明があります
医療相談	入院中のさまざまなご相談に応じます
治療薬剤	必要に応じて服薬治療が始まる場合があります

退院・転院基準 術後早期合併症無し
 退院日 年 月 日
 追加があれば記入

退院・転院基準 歩行能力の改善
 退院日 年 月 日
 追加があれば記入

かかりつけ医 ()
 主治医: () 他の担当者: ()

病状が安定している限り

検査	採血やレントゲンを行います。画像検査は一般病院で行うこともあります
治療	内服治療を継続します
相談	療養支援について相談を受けます

一般・療養型病床 ()
 主治医: () 他の担当者: ()

状態に応じて期間を決定

検査	採血やレントゲンを行います。画像検査は一般病院で行うこともあります
治療	内服治療を継続します
リハ	必要に応じてリハビリを継続します

施設 ()
 担当者: ()

状態に応じて期間を決定

相談	療養支援について相談を受けます
----	-----------------

同意書(本人または家族のサイン)
 日付 年 月 日 (続柄)
 氏名 ()

●地域連携診療計画について説明を受けました。

同意書(本人または家族のサイン)
 日付 年 月 日
 氏名 (続柄)

日常生活機能評価表
 点 ()

同意書(本人または家族のサイン)
 日付 年 月 日
 氏名 (続柄)

日常生活機能評価表
 点 ()

日常生活機能評価表
 点 ()